ISSN 0385-9487

# 東洋學論叢


書写山の一遍上人　竹村　牧男（1）

初期の禪宗が日本の佛教に與えた影響
—大安寺道璿を中心に—　伊吹　敦（26）

チュンダの施食
—*Paṭhamasambodhi* 第一四章Parinibbānakathā訳注研究（3）—　岩井　昌悟（91）

インド古代法における「寄託」概念について
—*Arthaśāstra* の例から—　沼田　一郎（103）

「グシュメーシュヴァラ・ジョーティルリンガ」の縁起譚
—『シヴァ・プラーナ』第四巻「コーティ・ルドラ・サンヒター」第三二章和訳—　山口しのぶ（116）

スィク（Sikh）教研究—序　橋本　泰元（136）

般若経の三乗思想　渡辺　章悟（146）

聖地における祖先供養
—『トリスタリーセートゥ』三六八－四〇五の和訳と註解—　宮本　久義（170）


東洋大学文学部紀要第66集

インド哲学科篇

XXXVIII

## 研究室報告

① 本年度は、新入生歓迎行事として四月二十二日に「新入生研修旅行・秩父札所巡り」を行った。三十四ヶ所から、札所一番（誦経山四萬部寺）、札所二十三番（松風山音楽寺）、札所三十一番（鷲窟山観音院）の三ヶ所を選び、バスで巡った。新入生には大いに好評で、学生相互あるいは教員との交流を深めることができた。関係各位には厚く御礼申し上げます。

② 本年度も六月二日に「東洋大学文学部伝統文化講座」の一環として、インド哲学科主催、東洋大学仏教青年会協力にて、真言宗豊山派迦陵頻伽聲明研究会による「聲明公演：雲上の祈り―奈良長谷寺勤行」を開催した。また六月二十一日にはモニーシャー・ナーヤク舞踊団による「インド伝統舞踊カタック公演」、十月三日には「カラリ・サンガム」一団による「インド伝統武術カラリパヤットゥ公演」を開催した。たくさんの出演者の皆様の好演を賜った。出演者の皆様には厚く御礼申し上げます。

③ 本年度、特別講義を拝聴した先生は左記の通りである。

田中公明先生（公益財団法人中村元東方研究所研究員）

「マンダラの歴史的発展とその意味」平成二十五年一月十七日（木）三時限

「ＣＧを利用したマンダラの図像データベース」平成二十五年一月十七日（木）五時限

④ 本年度も大学院の公開研究発表会を春学期（六月二十日）と秋学期（十一月二十八日）に開催した。春学期は、中村玲太（Ｄ１）、藤森晶子（Ｄ３）、三澤祐嗣（Ｄ３）、オーダム（Ｄ３）による研究発表、ならびに板敷真純、尾上海、小林史子、堤博枝、橋本順正、林明音、藤井明の七名の大学院新入生研究計画発表があった。秋学期は鮫島有理（Ｍ１）、中村玲太（Ｄ１）、井原知子（Ｄ３）の研究発表があり、またチャイトンディープラチャッポン（Ｄ３）による博士論文「Lokappadīpakasāra（『世間灯明精要』）の研究」提出報告があった。

なお秋学期の発表会に先立って、下田正弘先生（東京大学大学院教授）の講演「大乗経典の研究方法を再考する」を拝聴した。

⑤ 本年度のティーチングアシスタントは、井原知子、ウリジジリガラ、藤森晶子の各氏が担当した。

⑥ 本年度の卒業論文・制作の提出者は、Ｉ部が四六名、Ⅱ部が六名であり、大学院の修士論文提出者は一名であった。本年度の優秀論文に対する褒賞は左記の通りである。

・校友会奨学基金

学　部　鈴木伸幸（Ｉ部）、グスティ・アユ・クトゥト・プスパワティ（Ⅱ部）

大学院　鮫島有理

・勧学奨学基金
学　部　伊藤頼人（Ⅰ部）、三宮恵定（Ⅱ部）
・田村芳朗奨学基金
学　部　高木俊次（Ⅰ部）、伊藤綾夏（Ⅰ部）、古屋千瑛（Ⅰ部）

⑦　本年度、渡辺章悟教授が六月三十日に、鶴見大学で開催された日本印度学仏教学会第六三回学術大会の総会の席上で〈鈴木学術財団特別賞〉（平成二十四年度）を受賞した。受賞の対象は平成二十一年に山喜房佛書林より出版された『金剛般若経の研究』である。

⑧　なお学科改組により平成二十五年度より東洋思想文化学科がスタートするのにともない、本号をもって『東洋学論叢』は最終号とし、来年度からは中国哲学文学科の雑誌である『東洋大学中国哲学文学科紀要』と合併して『東洋思想文化』と改称する予定である。

## 平成二十四年度業績（平成二十四年一月～十二月）

### 竹村牧男

〈著書〉

『日本浄土教の世界』、大東出版社、平成二十四年二月二十二日、九～二八六頁

『日本仏教　思想のあゆみ』、浄土宗、平成二十四年八月一日、三～三五八頁

『〈宗教〉の核心　西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ』、春秋社、平成二十四年十月二十日、一～二五九頁

〈論文〉

「共に生きるいのちのつながり―仏教の見方から―」、『点から線へ』第六十号、石川県西田幾多郎記念哲学館、平成二十四年三月三〇日、一一二～一五〇頁

〈その他〉

西山茂・佐古弘文・竹村牧男鼎談「日蓮思想の現代的意義――西山宗教社会学の歩みから」、『中外日報』紙、平成二十四年八月三十日号

「井上円了の生涯」、東洋大学史ブックレット1、学校法人東洋大学、平成二十四年十一月二十三日、一～四三頁

「井上円了の哲学・思想」、東洋大学史ブックレット1、学校法人東洋大学、平成二十四年十一月二十三日、一～四五頁

「井上円了の教育理念」、東洋大学史ブックレット1、学校法人東洋大学、平成二十四年十一月二十三日、一～四四頁

「諸学の基礎は哲学にあり」、東洋大学編著『哲学をしよう――考えるヒント30』、平成二十四年十一月二十三日、二～一〇頁

〈学会発表等〉

「井上円了の哲学思想」、国際哲学研究センター第一ユニット第5回研究会、平成二十四年二月一六日、第二会議室（白山校舎）

「自然共生社会の思想的基盤を探る――仏教の立場から」、TEPh・ICAS共催国際セミナー

「環境の危機と人間の危機――自然と共生する社会とは」、平成二十四年三月十日、東洋大学白山校舎六三一七番教室

「親鸞と『大乗起信論』――報身・報土の問題を中心に」、早稲田大學東洋哲學會第二九回大會（招待講演）、平成二十四年六月九日、早稲田大学文学学術院三三―二号館二階第一会議室

「『大乗起信論』の人間観」、第一回韓・中・日国際仏教学術大会「東アジアにおける仏性・如来蔵思想の受容と変容」における基調講演、平成二十四年六月二十二日、フェラムホール（ソウル市・フェラムタワー三階）

「井上円了の哲学について」、アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）・ストラスブール大学日本学学科・東洋大学国際哲学研究センター（IRCP）共催国際井上円了学会フランス集「井上円了とその時代」、平成二十四年六月三十日、アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）会議室

日本仏教学会二〇一二年度学術大会「信仰とは何か—仏弟子ということ—」道元部会でコメンテーターを務める。平成二十四年九月十三日、京都・花園大学無聖館

「井上円了の哲学について」、国際井上円了学会設立大会記念公開講演、平成二十四年九月十五日、東洋大学スカイホール（白山校舎二号館一六階）

「人生の苦を見つめて——仏教の立場から」、第三一回日本医学哲学・倫理学会特別講演、平成二十四年十一月十八日、金沢大学医薬保健学域保健学類・鶴間地区（金沢市小立野）

〈講演〉

「日本における共生思想の展開について」、NPO法人日本トルコ文化交流会、平成二十四年二月二十七日、新東京ビル一〇階（西新宿）

「エコ・フィロソフィを考える——東日本大震災をふまえて」、第三回聖徳大学真理教育相談所主催講演会、平成二十四年三月二十四日、聖徳大学生涯学習社会貢献センター（聖徳大学一〇号館、千葉県松戸市）

「良寛さまと禅のこころ」、曹源寺文化講演会、平成二十四年四月二十九日、曹源寺（愛知県豊明市）

「日本人の哲学——空海から西田へ」、筑波大学特別講義～大学と学問～第三回、平成二十四年五月二日、筑波大学講堂

「円了における哲学と宗教」、日本工業倶楽部・素修会、平成二十四年五月九日、日本工業倶楽部（東京・丸の内）

「東洋大学の創立者　井上円了の人と思想」、東洋大学創立一二五周年記念事業・全国行脚講演会東京会場、平成二十四年六月十日、井上円了ホール（東洋大学白山校舎五号館）

「東洋大学の創立者　井上円了の人と思想」、東洋大学創立一二五周年記念事業・全国行脚講演会.in名古屋、平成二十四年七月八日、名古屋国際会議場、国際会議室（三号館三階）（名古屋市熱田区）

「東洋大学の創立者　井上円了の人と思想」、東洋大学創立一二五周年記念事業・全国行脚講演会.in福岡、平成二十四年八月四日、福岡ソフトリサーチパーク

「自然との共生と日本の思想」、平成二十四年度公益社団法人生命科学振興会北海道支部例会市民公開フォーラム「自然との共生と日本人の絆～私は、家族は、隣人は、民族は、国家は、いかに生きていくべきか～」、平成二十四年八月十八日、かでる2・7（道民活動センター五階、五二〇研修室）

「東洋大学の創立者　井上円了の人と思想」、東洋大学創立一二五周年記念事業・全国行脚講演会.in仙台、平成二十四年九月一日、仙台国際センター二階、橘（大会議室）

「井上円了の人と思想」、東洋大学校友会茨城県支部特別講演会、平成二十四年九月九日、甲子亭（牛久市田宮町）

「井上円了の人と思想」、東洋大学文化講演会.in牛久、平成二十四年十月十三日、東洋大学附属牛久高等学校

「人間力育成の大学教育をめざして」、鎌倉女子大学学術研究所

設立記念講演会、平成二十四年十月三十一日、鎌倉女子大学
「西田の禅思想」、宗教間対話研究所第六十四回月例研究会、平成二十四年十一月十五日、東京グランドホテル（港区芝）
「日本浄土教の世界」、宗元会例会、平成二十四年十一月二十一日、日本財団ビル二階（東京・虎ノ門）

〈講座等〉
「井上円了の教育理念」、経営学部疋田ゼミ、平成二十四年五月三十一日、白山一号館教室
天台宗・高野山真言宗・神社本庁主催、伝統宗教シンポジウム「宗教と環境―自然との共生」におけるパネルディスカッションでコーディネーター・提言を担当。平成二十四年六月二日、ホテルグランヴィア京都
「井上円了の教育理念」、理工学部特別授業、平成二十四年六月十一日、川越キャンパス教室
「井上円了の教育理念」、平成二十四年度福島県支部甫水懇談会・支部総会、平成二十四年七月七日、郡山市労働福祉会館（郡山市）
「環境問題について考えよう」、附属姫路高校高大連携特別講義、平成二十四年九月二十日、白山校舎五B一二より配信
「唯識哲学について」、生命科学部特別授業、平成二十四年十一月十四日、板倉キャンパス

〈学会活動〉
所属学会ならびに役職
日本印度学仏教学会（評議員）／日本宗教学会（理事）／比較思想学会（理事）／仏教思想学会（理事）／東方学会（会員）／共生社会システム学会（理事）

〈研究プロジェクトへの参加〉
東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ（TIEPh）・自然観探究ユニット代表者
東洋大学国際哲学研究センター（センター長：村上勝三「東洋大学」）第一ユニット研究員
国際井上円了学会会長

〈教育活動〉
学内担当科目
大学院：日本仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅲ（前期課程）
仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ（後期課程）

〈大学・学部管理・運営活動〉
学長　理事／井上円了記念学術センター所長／東洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学国際哲学研究センター研究員

## 宮本久義

〈論文〉
「『トリスタリーセートゥ』における聖地巡礼の規則」（単著、『東洋学論叢』第三七号〈「東洋大学文学部紀要」第六五集〉、平成二十四年三月三十日、一五五～一六八頁）

〈その他〉
事典項目執筆「ユガ」（単著、辛島昇ほか監修『［新版］南アジアを知る事典』平凡社、平成二十四年五月二十三日、八二一～八二二頁）
〈学会活動〉
所属学会ならびに役職
日本南アジア学会（常務理事、十月五日まで事務局長）／日本印度学仏教学会（評議員）／日本宗教学会（会員）／日本佛教学会（会員）／建築史学会（会員）／早稲田大学東洋哲学会（理事）
学会参加等
日本印度学仏教学会第六三回学術大会に参加、鶴見大学、平成二十四年六月三十日～七月一日
日本南アジア学会第二五回全国大会参加、東京外国語大学、平成二十四年十月六日～七日
〈調査活動〉
「スリランカにおける仏教とヒンドゥー教等との多文化共生関係の実地調査」平成二十四年三月十五日～二十一日、スリランカ・アヌラーダプラ、シギーリヤ、ポロンナールワ、キャンディ、カタラガマ、ゴール、コロンボにおいて、仏教、ヒンドゥー教、イスラーム間の共生関係の実態調査を行う。
「ブータンにおける多文化共生研究集会・現地調査」、平成二十四年八月二十三日～三十日、ブータン王国・ティンプーにて研究集会、パロ、ティンプー、プナカにて現地調査
〈研究プロジェクトへの参加〉
東洋大学国際哲学研究センター（センター長：村上勝三［東洋大学］）第三ユニット「課題・多文化共生社会の思想基盤研究」に所属し、南アジアにおける多文化・多宗教共生の研究を行う
「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述（科学研究費・基盤A）」（連携研究者、代表：水野善文［東京外国語大学］）古典文学研究班に所属しサンスクリット文学の研究を行う
〈教育活動〉
学内担当科目
学　部：インド古典哲学A・B（Ⅰ部）
インド現代思想（Ⅰ部）
現代のインド（Ⅰ部）
ヨーガとアーユルヴェーダ（Ⅱ部）
インド学仏教学演習②（Ⅰ部）
インド学仏教学への誘い（Ⅱ部）
全学総合ⅠA「エコ・フィロソフィ入門」（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当
「ガンジス川をめぐるインドの環境問題」（平成二十四年十月二十五日）
全学総合ⅠA②「哲学への誘い」（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）

一回担当
「ヨーガにおける心と身体」（平成二十四年六月二十一日）
全学総合ⅡA「「妖怪学」リニューアル！」（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当
「インドにも百鬼夜行―アジアの妖怪（一）」（平成二十四年六月五日）
共通総合Ⅷ「校友会寄附講座」（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当
「井上円了の外道哲学」（平成二十四年六月十六日）
宗教をめぐる諸問題B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）二回担当
「ヒンドゥー教とは何か」（平成二十四年十月二十七日）
「ヒンドゥー教における聖者③（現代）」（平成二十四年十一月一日）
大学院：サンスクリット文献研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ（前期課程）
インド哲学特殊研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ（後期課程）
学外担当科目
専門語学「サンスクリット語」国際仏教学大学院大学（通年）
総合講座「東洋医学の人間科学」中、「ヨーガとアーユルヴェーダ」を担当、早稲田大学人間科学部（平成二十四年十二月七日、十四日、二十一日）

〈社会的活動〉
公開講座「インド文学におけるモラルとインモラル」東洋大学生涯学習センター・エクステンション学習講座B「東洋思想への誘い」、平成二十四年六月二日、東洋大学白山キャンパス
講演「現代インド社会におけるヒンドゥー教 ― 再考：インド人の思考法」東京浅草ロータリークラブ、平成二十四年七月六日、浅草ビューホテル
講演「インド神話の世界」上田・民話フェスティバル、平成二十四年十一月十日、さくら国際高校
講演「日本にもやってきたインドの神さまたち」特別展「華麗なるインド神話の世界」関連企画、平成二十四年十一月十一日、横浜ユーラシア文化館
講演「ヒンドゥー教の世界観と人生観」府中市民講座、平成二十四年十二月十一日、府中市生涯学習センター
（財）東京大学仏教青年会評議員

〈大学・学部管理・運営活動〉
大学院文学研究科委員長／大学院自己点検・評価委員会委員／校友会学生研究奨励基金運営委員会委員／井上円了記念研究助成金運営委員会委員／自然科学委員会委員／東洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学国際哲学研究センター研究員・副センター長／教職課程運営委員会オブザーバー

**橋本泰元**

〈論文〉

"Kabīr's dohā : its History and Concepts," Nagasaki, Hiroko (ed.), *Indian and Persian Prosody and Recitation*, Delhi : Saujanya Books, 2012, pp.163～172.

〈その他〉

「スリランカにおける諸宗教の『共生』」『中外日報』平成二十四年六月二十三日号、五頁

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学佛教学会（理事）／日本宗教学会（会員）／日本南アジア学会（会員）／日本佛教学会（会員）

〈研究・調査活動〉

「スリランカにおける上座部仏教とヒンドゥー教の共生に関する実地調査」、平成二十四年三月十五日～三月二十二日、コロンボ、アヌラーダプラ、シギーリヤ、キャンディ、カタラガマ、ゴールにて調査。

「ブータンにおける多文化共生研究集会・現地調査」東洋大学国際哲学研究センター（第三ユニット）予算にて平成二十四年八月二十三日～八月三十日、パロ、ティンプー、プナカ各地にて、「国民総幸福量」政策の実現状況を、自然との共生策・宗教政策の観点から実地調査。他の参加者はユニット長宮本久義、研究員永井晋、研究助手堀内俊郎、RA三澤祐嗣、客員研究員斎藤明、客員研究員井上忠男。

〈研究プロジェクトへの参加〉

多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」〈平成二十四年度科学研究費補助金［基盤研究（A）］研究代表者：水野善文［東京外国語大学］連携研究者〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三［東洋大学］）第三ユニット研究員

〈教育活動〉

学内担当科目

学　部：インドの宗教A・B（Ⅰ・Ⅱ部）

ヒンドゥー教とは何か（秋学期）（Ⅱ部）

インド学仏教学演習③（Ⅰ部）

仏教の芸能（秋学期、コーディネーター）（Ⅱ部）

宗教をめぐる諸問題A・B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、コーディネーター）

「ヒンドゥー教における聖者②（中世）」（十一月十七日、六時限）

「スィク教と聖者」（十一月二十四日、六時限）

文学部伝統文化講座「聲明講演」（六月二日主催）

校友会寄附講座（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）

「哲学館初期のカリキュラムの特色―哲学を如何に教育するのか」（七月二十一日、五時限）

大学院：インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ（前期課

程）
インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ（後期課程）

学外担当科目
大正大学学部：ヒンディー語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

〈大学・学部管理・運営活動〉
文学部自己点検・評価委員会委員／東洋大学東洋学研究所所長／東洋大学国際哲学研究センター研究員

〈社会的活動〉
団体役員等
大法輪石原育英会評議員

**渡辺章悟**

〈著書〉
『絵解き般若心経―般若心経の文化的研究』（単著、ノンブル社、平成二十四年五月、全二四九頁）

〈論文〉
「六国史にみる般若経」（単著、『東洋学研究』第四九号、東洋大学附置東洋学研究所、平成二十四年三月、一一一～一三三頁）
「般若心経研究の現在」（単著、『印度学仏教学研究』第六〇号第二巻、平成二十四年三月、二八一～二八二頁第六二回印仏学会パネル報告、パネル代表者として）
「般若経の成立過程―智の展開を中心として」（単著、『経典とは何か（二）―経典の成立と展開受容』日本仏教学会編、二九～六二頁、平楽寺書店、平成二十四年七月）

〈特別講義・講演〉
「奮闘哲学」東洋大学校友会寄附講座、東洋大学白山校舎、平成二十四年一月七日
「『般若心経』の描く世界」（ブッダに聴く―大乗経典を中心に―）武蔵野大学オムニバス仏教講座、平成二十四年三月二十八日
「『般若心経』を読む」（ＮＰＯ法人かわさき市民アカデミー、ワークショップ）平成二十四年四月九日から七月二十三日まで一二回、川崎市生涯学習プラザ：武蔵小杉
「大乗仏教論」東京国際仏教塾、本郷：東京大学仏教青年会ビル、平成二十四年六月二日
「維摩居士の倫理とは」（東洋思想への誘い―インド文化・仏教の倫理思想―）東洋大学エクステンション講座、東洋大学白山校舎、平成二十四年六月二十三日
「今、なぜ井上円了か」長崎県諫早市：東洋大学校友会長崎支部、平成二十四年七月八日
「赤十字の思想と仏教の憐愍」日本赤十字秋田看護大学：秋田市、平成二十四年十一月十三日
「絵で読み解く般若心経―江戸時代の南部絵文字文化―」黄檗勉強会、黄檗宗洞雲寺：東京都豊島区池袋、平成二十四年十一月二十九日

〈翻訳〉
「お経の真意―般若心経・観音経の現代語訳」（『神仏参拝の由来と作法がわかる本』新人物往来社、二九六～三〇六頁、平成二十四年十二月）
〈その他〉
「誰でも読める般若心経―南部・盛岡藩で流行した絵文字文化」『在家佛教』平成二十四年一月号、社団法人在家仏教協会、四四～四七頁
「『般若心経』から見た観自在菩薩と空」（『佛教文化』第一五八号、一三～一九頁、東京国際仏教塾、平成二十四年八月十日）
〈学会活動〉
所属学会ならびに役職
日本印度学仏教学会（理事・常務委員・評議員・企画編集委員）／日本西蔵学会（委員）／日本宗教学会（評議員）／日本佛教学会（会員）／仏教思想学会（会員）／東アジア仏教学会（会員）／国際仏教学会IABS（会員）／国際真宗学会（会員）
学会参加等
日本印度学仏教学会第六三回学術大会に参加、鶴見大学、平成二十四年六月三十日～七月一日（常務委員・理事として常務委員会・理事会にも参加）
〈調査活動〉
「スリランカにおける仏教とヒンドゥー教等との多文化共生関係の実地調査」平成二十四年三月十五日～二十一日、スリランカ・アヌラーダプラ、シギーリヤ、ポロンナールワ、キャンディ、カタラガマ、ゴール、コロンボにおいて、仏教、ヒンドゥー教、イスラーム間の共生関係の実態調査を行う。
〈研究プロジェクトへの参加〉
東洋大学国際哲学研究センター（センター長：村上勝三［東洋大学］）第三ユニット「課題・多文化共生社会の思想基盤研究」に所属し、仏教を中心とした多文化・多宗教共生の研究を行う。
東洋大学東洋学研究所プロジェクト：東アジアにおける仏教の受容と変容」（研究代表者）
「仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究」（文科省科学研究費［基盤研究（A）］、研究代表者・斎藤明［東京大学］、研究分担者）
〈教育活動〉
学内担当科目
学　部：ブッダの思想とその展開A・B（Ⅰ・Ⅱ部）
大乗仏教の思想Ⅰ（Ⅱ部）
インド学仏教学演習④（Ⅰ部）
インド学仏教学演習（Ⅱ部）
文学部総合科目Ⅰ（Ⅰ・Ⅱ部共通）
宗教をめぐる諸問題A・B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）二回担当
「大乗仏教とは何か」（五月十二日、六時限）

「大乗仏教における聖者」（五月十九日、六時限）
校友会寄附講座（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）六回担当ならびに全体責任者
「井上円了は何を目指し、何を実現しようとしたか―その生涯と実践」（四月十四日、五時限）
「井上円了が受けたカルチャーショック―円了は海外で何を見、何を考えたのか―」（七月十四日、五時限）
「春学期講義のまとめ・通常試験」（七月二十八日、五時限）休講
「哲学館から東洋大学へ」（九月二十九日、五時限）
「井上円了の生涯をかけた熱き戦い―最後の著作『奮闘哲学』による」（一月五日、五時限）
「講座のまとめ・平常試験」（一月十九日、五時限）
大学院：大乗仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ（前期課程）
仏教学特殊研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ（後期課程）
学外担当科目：大正大学大学院「仏教学特論Ａ・Ｂ」通年
国際仏教学大学院大学「仏教学と環境問題」半期
博論審査担当：チャイトンディー・プラチャッポン氏（東洋大学提出）の主査、石上和敬氏（東京大学提出）の副査、庄司史生氏（立正大学提出）の副査

〈大学・学部管理・運営活動〉
教職課程運営委員／東洋大学東洋学研究所（運営委員・研究所員・『東洋学』編集委員）／東洋大学国際哲学研究センター研究員／大学院文学研究科インド哲学仏教学専攻主任
〈社会的活動〉
（公財）仏教伝道協会・英訳大蔵経編集委員会（委員）・仏教聖典編集委員会（委員）／（公財）全日本仏教会国際交流審議会（委員）／（公財）東方研究会（研究員）／（特財）大法輪育英会奨学生選考委員会（委員）／（般財）仏教学術振興会（評議員）

**伊吹　敦**

〈論文〉
「東山法門的修行生活以及禪觀的意義」（単著、莊國彬主編『佛教禪坐傳統研討會論文集』法鼓佛學院論叢4、法鼓文化〈台北〉、平成二十四年一月、一六九～一九九頁）
「墓志銘所見初期禅宗」（単著、『宗教研究』二〇一〇、中国人民大学佛教与宗教学理論研究所編、宗教文化出版社、平成二十四年三月、一九一～二二五頁）
「「東山法門」と国家権力」（単著、『東洋学研究』第四九号、平成二十四年三月三十日、四〇三～四三六頁）
「「大乗五方便」の成立と展開」（『東洋大学文学部紀要』第六五号〈インド哲学科篇第三七号〉、平成二十四年三月三十日、一頁～六二頁）

〈その他〉

「南宋・金の衰亡と禅（下之中）　要説・中国禅思想史　三二一」（『禅文化』二二三、平成二十四年一月二十五日、六三～七二頁）

「南宋・金の衰亡と禅（下之下）　要説・中国禅思想史　三三三」（『禅文化』二二四、平成二十四年四月二十五日、一四二～一五〇頁）

「モンゴルの中国支配と禅（上）　要説・中国禅思想史　三四」（『禅文化』二二五、平成二十四年七月二十五日、六四～七二頁）

「モンゴルの中国支配と禅（中）　要説・中国禅思想史　三五」（『禅文化』二二六、平成二十四年十月二十五日、一〇二～一一〇頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

東アジア仏教研究会（役員）／日本佛教学会（理事）／日本印度学仏教学会（会員）／早稲田大学東洋哲学会（会員）／財団法人東方学会（会員）

学会発表等

「初期の禪宗が日本の佛教に與えた影響―大安寺道璿を中心に―」（平成二十四年五月四日、玄奘大學語文教學暨文化交流國際學術研討會、玄奘大学、台湾・新竹）

「禪宗の成立と佛性觀の變容」（平成二十四年六月二十三日、第一回韓中日国際仏教学術大会、フェラム・ホール、韓国・ソウル）

「道璿は天台教學に詳しかったか？」（平成二十四年六月三十日、日本印度学仏教学会第六三回学術大会、鶴見大学）

「日本古文献所見中国早期禅宗―以大安寺道璿撰《集注梵網経》為中心」（平成二十四 年一一月四日、第三届世界漢学大会、人民大学、北京・中国）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三［東洋大学］）第一ユニット研究員

〈教育活動〉

学内担当科目

学　部：インド学仏教学演習⑦（Ⅰ部）

中国仏教のあゆみA・B（Ⅰ・Ⅱ部）

禅の思想（春学期）（Ⅱ部）

仏教を歩く（春学期）（Ⅱ部）

宗教をめぐる諸問題A・B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）二回担当

「中国仏教とは何か」（五月二十六日、六時限）

「中国仏教における聖者」（六月二日、六時限）

校友会寄附講座（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当

「哲学館の後継者たちの活躍―境野黄洋、高嶋米峰など」（十一月十日、五時限）

大学院：中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ（前期課程）

仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導Ⅳ（後期課程）

学外担当科目
大学院：「仏教学特殊研究」（国際仏教学大学院大学、一回担当、五月二十三日）
〈大学・学部管理・運営活動〉
インド哲学科Ⅰ部主任、文学部内資格審査委員会委員、東洋大学東洋学研究所研究所員／東洋大学国際哲学研究センター研究員
〈社会活動〉
公開講座「禅に倫理はあるか」（東洋大学生涯学習センター公開講座、エクステンション学習講座B〈東洋思想への誘い〉六月十六日、白山キャンパス）

**山口しのぶ**
〈論文〉
「西インドのヒンドゥー教」『朝倉世界地理講座4』（立川武蔵・杉本良男・海津正倫編）、朝倉書店、平成二十四年六月、三一五～三二二頁。
〈学会活動〉
所属学会ならびに役職
日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／南アジア学会（会員）／日本佛教学会（理事）／日本西蔵学会（会員）／密教図像学会（会員）／東海印度学仏教学会（会員）／パーリ学仏教文化学会（会員）
〈研究プロジェクトへの参加〉
東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三「東洋大学」）第三ユニット研究員
〈教育活動〉
学内担当科目
学　部：インド学仏教学演習⑧（Ⅰ部）
インド学仏教学演習（Ⅱ部）
宗教学ⅡA・B（Ⅱ部）
インド学仏教学への誘いB（Ⅰ部）
チベット仏教のあゆみ（Ⅰ部）
インド・仏教の美術（Ⅰ部）
宗教をめぐる諸問題A・B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）
「チベット仏教とは何か」（七月七日）
「チベット仏教における聖者」（七月一四日）
校友会寄附講座（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当
「哲学館からチベットへ―明治の取経僧・河口慧海と能海寛」（十一月十七日）
大学院：大乗仏教研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ（前期課程）
仏教学特殊研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ（後期課程）
〈大学・学部管理・運営活動〉
第二部インド哲学科主任／東洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学国際哲学研究センター研究員

**沼田一郎**

〈論文〉

「贖罪」規定の変容とdharma文献の構造」（単著、『印度学仏教学研究』第六一巻第一号、二三九～二四五頁）

「Dharmasūtra文献における贖罪規定の位置づけ」（単著『東洋学論叢』第三七号〈「東洋大学文学部紀要」第六五集〉、平成二十四年三月三十日、四一～四九頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会（会員・英文叢書委員会委員・幹事）／日本印度学仏教学会（会員）／日本佛教学会（会員）／アジア法学会（会員）／国際井上円了学会（会員）／

研究発表・シンポジウム・講演・特別講義

「贖罪規定の変容から見たdharma文献の構造」（日本印度学仏教学会第六三回学術大会、第一部会、平成二十四六月三十日、鶴見大学）

「古代インドにおける倫理と社会規範―ダルマ（dharma）と〈法〉概念の接点―」（東洋大学国際哲学研究センター第二ユニットシンポジウム「〈法〉概念の時間と空間－法の多様性とその可能性を探る」平成二十四年十二月十五日　東洋大学白山キャンパス）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三［東洋大学］）運営委員・第二ユニット研究員

〈教育活動〉

学内担当科目

学　部：サンスクリット文献を読むA・B（Ⅰ部）

古代インドの社会（Ⅱ部）

インド学仏教学演習①（Ⅰ部）

インド学仏教学演習（Ⅱ部）

インド古典哲学（Ⅱ部）

宗教をめぐる諸問題B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）二回担当

「ヒンドゥー教における聖者①（古代）」（十一月十二日）

「ゾロアスター教における聖者」（十二月八日）

全学総合ⅠA一回担当「古代インドにおける実践倫理（七月十二日）

〈大学・学部管理・運営活動〉

東洋大学東洋学研究所研究員・運営委員／東洋大学東洋学研究所『東洋学研究』編集委員／国際哲学研究センター運営委員・研究員／文学部予算委員会委員／文学部カリキュラム委員会委員

〈社会的活動〉

東洋大学講師派遣事業［生涯学習プログラム］「だれが聴き、だれが見るのか ―「わたし」の本質」（平成二十四年十一月十六日　水戸市内原中央公民館）

公開講座「古代インド思想の行為軌範」（東洋大学生涯学習セン

ター公開講座・エクステンション学習講座B〈東洋思想への誘い〉平成二十四年五月二十六日、東洋大学白山キャンパス）

模擬講義（〈夢ナビライブ〉「世界の中のアジアと日本―その過去と未来―」（平成二十四年七月十四日　東京ビッグサイト）

**岩井昌悟**

〈論文〉

「今は無佛時代か有佛時代か？―佛の遺骨と生きている佛」（単著、『東洋学論叢』第三六号〈「東洋大学文学部紀要」第六五集〉、平成二十四年三月三十日、九一～一一八頁）

〈その他〉

「原始仏典（経・律）とは」（単著、『大法輪』第八号〈特集―今こそ読みたいブッダのことば―原始経典の世界〉、平成二十四年八月一日、七四～七八頁）

〈学会発表等〉

「菩薩の信（saddhā）について――佛もまた過去佛の佛弟子か」日本佛教学會第八二回二〇一二年度学術大會、平成二十四年九月十四日、花園大学

「日本をどう考えるのか（井上円了の倫理観の変遷）―井上円了の忠と孝―」国際哲学研究センター第1ユニット研究会、平成二十四年、十月三一日、東洋大学白山キャンパス三号館二階第二会議室

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／日本佛教学会（会員）／仏教思想学会（会員）／パーリ学仏教文化学会（普通会員）、日本チベット学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

「東洋大学東洋学研究所プロジェクト：東アジアにおける仏教の受容と変容」の研究分担者

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三「東洋大学」）第一ユニット研究員

〈教育活動〉

学内担当科目

学　部：インド学仏教学演習⑤（Ⅰ部）

インド仏教のあゆみA・B（Ⅰ・Ⅱ部）

パーリ文献を読むA・B（Ⅰ部）

初期仏教の思想（Ⅰ部）

インド学仏教学への誘いA（Ⅰ部）

宗教をめぐる諸問題A・B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）二回担当

「初期仏教とは何か」（四月二十一日、六時限）

「初期仏教における聖者」（四月二十八日、六時限）

校友会寄附講座（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当

「日本をどう考えるのか―井上円了の忠と孝」（六

月二十三日、五時限）

〈大学・学部管理・運営活動〉

白山図書館運営委員／入試委員会委員／情報機器運営委員会委員／リーフレット委員会委員／東洋大学東洋学研究所研究員・運営委員／東洋大学国際哲学研究センター研究員

〈社会的活動〉

講座「初期仏教と倫理」（東洋大学生涯学習センター公開講座・エクステンション学習講座B〈東洋思想への誘い―インド文化・仏教の倫理思想〉、平成二十四年六月九日、東洋大学白山キャンパス）

## 平成二十四年度演習ゼミ活動報告

### 沼田一郎

インド学仏教学演習①

①テーマ「インド古代社会・文化の基礎」

②メンバー　幹事：池尾和恵（三年生）、（幹事を除く）四年生八名、三年生十四名、二年生十二名

③活動報告

今年度はR. S. Sharma：*India's Ancient Past*, OUP, 2006を講読した。古代インド社会、文化を概説したものであり、かつ英語の講読と言うことでこれを選んだのである。途中からは担当者を決めずに、訳させることにした。このほかには研究発表と卒論指導がゼミ活動の柱である。前者については、三年生の段階から卒論を視野に入れた内容を要求するべきであると感じた次第である。後者の卒業論文については、四年生を「卒論指導」として別扱いとし、ゼミへの出席を義務づけなかった。できるだけ早い時期にテーマを発見すること、そしてそれについて教員との討論を通して深く掘り下げることを要求した。卒業論文は早くから取り組んだ者とそうでない者との差が出たことは言うまでもない。

「インド地誌」も昨年度に続いて実施した。これはメンバーが任意に選んだ州、都市等についての情報を最大限収集して報告するというものである。充実した発表が多かったが、ウェブ情報の扱いや発表態度については、よりきめ細かい指導が必要である。

また、後期からはテーマを自由に設定してのディスカッションを取り入れた。ゼミ活動への活発な参加を期待してのことであったが、運営を学生に任せるなどの工夫が必要であろう。

### 宮本久義

インド学仏教学演習②

①テーマ「インド思想研究」

②メンバー　（春学期）幹事：幹事：松井走馬、副幹事：目黒見、（幹事を除く）四年生十名、三年生八名、二年生十九名、（秋学期）幹事：齊藤拓馬、副幹事：湯浅輝音（幹事を除く）四年生十名、三年生七名、二年生十八名

③活動報告

例年通り四つの班が年間を通して研究するテーマを決め、それに関連するサンスクリット原典あるいは外国語文献の一部を読解することを課題とした。ただしゼミの人数が多いので、希望の多かった文化班はA、Bの二つに分けることとした。哲学班はウパニシャッドの哲学に取り組み、宇宙の根本原理であるブラフマンとアートマン、さらに聖音オームの思想的意義について考察した。文学班は古典サンスクリット文学の戯曲研究をテーマとし、カーリダーサの諸作品や『チャトゥルヴァーニー』

を中心に道化（ヴィドゥーシャカ）や粋人（ヴィタ）の役割の解明に取り組んだ。また古典文学・芸能鑑賞の基礎となるラサの理論や現代文学を扱う学生もいて、多彩な発表が聞けた。神話班は創造神話研究をテーマとし、ウパニシャッド聖典、叙事詩、法典類、プラーナ聖典などに説かれるさまざまな創造神話の特徴を追究した。さらに、他の文化圏の創造神話との比較も行った。文化班Aは芸術をテーマとし、インド古典音楽が欧米のミュージシャンに与えた影響や、刺繍の意匠に込められた女性の願い、宝石とインド占星術の関係など、興味ある発表がなされた。文化班Bのテーマはインドの偉人・聖者の研究で、カナーダ、ラーマクリシュナ、サイババ、ラジニーシュ、マハートマー・ガーンディー、インディラー・ガーンディーなど、哲学者、宗教者、政治家の生涯と思想をめぐってさまざまな発表が行われた。

以上の班発表のあいだに、本ゼミでは四年生はもとより、三年生、二年生にも卒業論文（制作）に向けての中間構想を発表してもらうことになっているが、皆早くから研究課題を見つけようとする努力が見られた。

夏期の研修合宿は九月九日から十一日まで、鴨川セミナーハウスで行った。各自の個人発表では充分に時間をかけて準備された発表が相次ぎ、またゼミ生間の親睦を深めることができた。

**橋本泰元**

**インド学仏教学演習③**

①テーマ「ヒンドゥー教思想研究」

②メンバー　ゼミ長：玉本千幸（三年生）、副ゼミ長：小林祐太（三年生）、他四年生九名、三年生（正副ゼミ長を除く）四名、二年生十一名、

③活動報告

昨年度に引き続き、初めの数回で本ゼミの授業の主旨、資料概説、卒業論文を視野に入れた論文執筆方法などを講義した。今年度は、昨年度と同様、個人研究発表が中心となった。内容はヒンドゥー教の神話と神観念、儀礼、中世バクティ思想、アーユルヴェーダが中心であった。

個人発表における発表とレジュメの作成などの提示方法も徐々によくなってきたと思う。しかし、毎年度の反省点と同じであるが、参考資料のほとんどが邦文文献であり、ヒンドゥー教に関わる原典を読み英文研究資料を批判的に読むという訓練に取り組む試みを行ったが、断続的にしか実現できなかった。

この自主的研究発表と平行して、四年生の卒業論文の中間発表も授業中に行い、さらに夏期研修合宿にても行った。三年時からの個人ないしグループ発表を継続したことに起因すると思われるが、今年度の卒論発表もまとまりがよく、結果として質の良い論文が多かったと思える。今年度の夏期研修合宿は、新設の河口湖セミナーハウスにて九月五日～八日の二泊三日で

行った。四年生の卒論中間発表で日程が一杯となり、とても充実した、また楽しく夏期研修を行えたと思う。

**渡辺章悟**

①テーマ「大乗仏教の研究」

②メンバー　幹事：鈴木伸幸（四年生）、（幹事を除く）四年生七名（一名休学中）、三年生七名、二年生一名

③活動報告

本ゼミは大乗仏教の研究をテーマとするが、その分野はインド・中国・日本と広く捉え、分野を限定せずに多様な視点から仏教研究を行うことを目指している。ゼミの進め方は、毎回特定のテーマを決めて各自が研究発表を行う方法をとっている。これは学生の意欲的な研究活動を促進するためであり、調査し、纏め、発表するという訓練を兼ねている。

本年は前期に羅什訳『維摩経』「不二法門品」を講読した。維摩経に説かれる「不二の思想」を原文に即して考察することで、大乗仏教の思想を知る格好の機会になったと思う。

後期は従来の方針通り、ゼミ員の研究発表を行った。今年のゼミは構成人数からしても経験のある四年生が中心であることから、全体に良くまとまった発表が多かったように思う。発表は秋学期のみと言う制限もあり、一人一回であったが、それではもったいないほど充分な準備を行って、発表に臨んだ者もあった。一方、ほとんどゼミのテーマと関係しないその場しのぎの安易な発表もあり、如何に準備をして研究発表に臨むかという心構えを養うことが求められていることも実感させられた。

夏期研修合宿は、担当教員が体調不良で入院を余儀なくされたこともあり、実施できなかった。しかし、秋学期学祭期間の連休を利用して、一昨年度のゼミ卒業生である麻生弘融氏が副住職を勤める広島県安国寺不動院を訪ね、国宝の建造物や文書などを拝観する機会をもうけることができた。遠方地で参加者が少なかったため、仏教青年会のメンバーと一緒に行ったこともあり、仏教色一色の楽しい研修旅行になった。

今年度の卒論提出者は六名であり、その中から校友会賞に選出された論文もあった。

**岩井昌悟**

インド学仏教学演習⑤

①テーマ「初期仏教の研究」

②メンバー　幹事：杉崎希望（三年生）、（幹事を除く）四年生三名、三年生九名、二年生三名、

③活動報告

本年度も昨年度を踏襲し、最初に指導教員が原始仏教聖典について概説し、その後は、卒業論文・卒業制作を視野に入れた「個人研究」と、ゼミ生全員による「共同研究」の二本立てとし、個人研究の報告が一巡したら、共同研究の発表に移り、それが

終わるとまた個人研究に戻るという形で、両研究を交互に進めた。なお「共同研究」とはいっても各人が主体的に同一テーマにとりくむ形であり、グループ別の研究ではない。

本年度に設けた共同研究テーマは「初期仏教における恐怖とは」というものであった。この問題を明らかにすべく、各ゼミ生が分担（南伝大蔵経で一人三〜四冊）してパーリ聖典を翻訳によって読み進め、毎回読んだ箇所から共同研究テーマに関連するなんらかの発表を行った。翻訳を通してでも、とにかく聖典に直接触れてもらいたいという意図が指導教員側にあり、その点は達成できたであろう。

課外活動は四月二十三日に新ゼミ生歓迎コンパを行ったほか、八月二十七日〜二十九日の日程で河口湖セミナーハウスにて夏期合宿を行い、参加者全員が個人研究の発表を行った。

昨年度の秋学期から幹事を務めていたゼミ生が休学したため、三年生が四月から実質上の幹事を務める異例の事態があった。

四年生一人が卒業論文を提出した。

## インド学仏教学演習⑥　本年度休講

## 伊吹　敦

## インド哲学仏教学演習⑦

①テーマ

②メンバー　幹事：古屋千瑛（四年生）、（幹事を除く）四年生八名、三年生五名、二年生五名

③活動報告

本年度は、前期は卒論に関する発表を中心に、また、後期は道元の言葉を弟子の懐奘が記した『正法眼蔵随聞記』の輪読を中心に授業を行った。輪読では、テキストを適当に区切り、担当者を決めて、各自作成したレジュメに基づいて発表をしてもらった。

日本と中国の仏教を対象とするゼミということであるが、昨年、凝然の『八宗綱要』を用いて漢文訓読の練習を行ったので、今年は和文の文献を読むこととし、道元の言動を伝える『正法眼蔵随聞記』を輪読することにした。道元の肉声は、偉大な人間の存在をありありと伝えており、魅力的であるし、その言動を通して、その背後にある道元教団のあり方を探ることで、文献を深読みする技術を身につけてもらいたかったからである。学生たちの様子を見ると、この目的は不完全ではあるが、ある程度達成されたと考えている。

卒論指導は、授業中の内容発表と研究室での個別指導を随時行ったが、学生によって熱意に大きな違いがあり、できあがった卒論の程度も様々であったが、いずれもそれなりに努力の跡は認められ、一定の水準には達していると判断している。

課外活動としては、コンパを何度か行った外、学生の希望に沿って、夏季休暇中に富士見高原セミナーハウスで合宿を行っ

た。期間は短かったが、ほとんど勉強づけの時間を過ごし、卒論へのモチベーションを高めることができたと思う。

**山口しのぶ**

**インド学仏教学演習⑧**

①テーマ「密教研究およびインド・仏教美術の研究」

②メンバー　幹事：賀集桃子（三年生）、（幹事を除く）四年生九名、三年生四名、二年生十一名

③活動報告

本年度春学期は英語の文献講読を行い、秋学期は個人発表を中心にゼミを進めた。英語の文献講読に関しては、昨年度に引き続き、Robert E. Fisher著『チベットの美術』（*Art of Tibet*）を使用し、学生が和訳を順番に行った。二年生ははじめて同テキストに目を通すこととなったので、前年度の要約を用意して解説を行ってから和訳作業にとりかかった。英文講読は内容解説が必要だったので、分量がどうしても少なくなってしまうきらいがあった。次年度も引き続きこのテキストを読み進め、内容的にも少しずつ理解を深めていってほしい。

秋学期には学生が一人ずつ研究発表を行った。今年度は仏教遺跡・仏像・マンダラなどの美術をテーマとするものの他に、インド文学、空思想、またアジアの格差社会等現代の諸問題に関する発表もあり、内容的には多岐にわたった。四年生は卒業研究のテーマに沿って発表を行ったが、卒論作成の進捗状況の個人差が大きく、それが最終的な卒論の出来につながってしまった。その他九月二十日から二十一日にかけて埼玉県秩父市の大陽寺宿坊にてゼミ合宿を行った。

今年度の成果と反省をふまえ、次年度は年度当初に二年生、三年生、四年生それぞれのゼミでの研究の達成目標を各自設定し、それにしたがって効果的な学習や研究発表をしていってほしい。また今年度は春学期がテキスト講読、秋学期が個人発表に充てられたが、次年度は年間を通じて、テキスト講読と個人発表を並行して行う予定である。

**沼田一郎**

**インド学仏教学演習⑨⑪**

①テーマ「インド古代社会・文化の基礎」

②メンバー　幹事：熊谷　太伸（三年生）、（幹事を除く）四年生三名、三年生十一名、二年生五名

③活動報告

今年度はR. S. Sharma：*India's Ancient Past*, OUP, 206を講読した。古代インド社会、文化を概説したものであり、かつ英語の講読と言うことでこれを選んだのである。途中からは担当者を決めずに、訳させることにした。このほかには研究発表と卒論指導がゼミ活動の柱である。前者については、三年生の段階から卒論を視野に入れた内容を要求するべきであると感じた次第である。後者の卒業論文については、四年生を「卒論指導」

として別扱いとし、ゼミへの出席を義務づけなかった。できるだけ早い時期にテーマを発見すること、そしてそれについて教員との討論を通して深く掘り下げることを要求した。卒業論文は早くから取り組んだ者とそうでない者との差が出たことは言うまでもない。二部は卒論が選択科目であることから、履修者が激減していることは問題である。

「インド地誌」も昨年度に続いて実施した。これはメンバーが任意に選んだ州、都市等についての情報を最大限収集して報告するというものである。充実した発表が多かったが、ウェブ情報の扱いや発表態度については、よりきめ細かい指導が必要である。

また、後期からはテーマを自由に設定してのディスカッションを取り入れた。ゼミ活動への活発な参加を期待してのことであったが、運営を学生に任せるなどの工夫が必要であろう。

**山口　しのぶ**

**インド学仏教学演習⑩⑫（Ⅱ部）**

①テーマ「仏教学分野」

②メンバー　幹事：大田有貴子（三年生）、（幹事を除く）四年生三名、三年生二名、二年生九名

③活動報告

本年度春学期は英語の文献講読を行い、秋学期は個人発表を中心にゼミを進めた。英語の文献講読に関しては、昨年度に引き続き、Robert E. Fisher著『チベットの美術』（*Art of Tibet*）を使用し、学生が和訳を順番に行った。ゼミ生は各自の割り当て箇所の予習を確実に行って授業中発表してくれたので、授業はスムーズに進んだ。また秋学期は、それぞれのテーマで個人での研究発表を行った。二、三年生のテーマはマンダラ、インドや日本の仏像、仏教の世界観、仏教建築など仏教の美術や文化が中心であった。また四年生は卒論テーマとして「アメリカ仏教」「中論研究」「近代日本仏教と社会福祉」などを選び、中間発表および卒論提出後の報告を行った。

授業以外の行事としては、親睦会（食事会）を数回行ったほか、十一月十一日に鎌倉の寺社見学を行い、覚園寺、鶴岡八幡宮などを訪ねた。特に覚園寺は参加者全員が初めての見学で、寺院関係者の説明のもと所蔵の仏像や建築などを堪能した。今後もできればこのような見学会を行っていきたい。

## 平成二十四年度開講科目

・授業名、サブタイトル、担当者の順に記す。
・平成二十一年度以降の新カリキュラムと平成二十年度以前の旧カリキュラムの間で、授業の名称に変更があったものについては、新カリキュラムの名称を掲載した。
・通年科目はA（春学期）・B（秋学期）に分かれるが、担当者が同一であり、かつ、サブタイトルが春秋通じて同一の場合、その区分は省略して記した。
・ただし、半期のみの授業については《春》《秋》と表記した。
・担当者および《春》《秋》の授業区分に付したカッコ内の数字は、それぞれⅠ部・Ⅱ部の区別を示す。カッコが付されていないものは、Ⅰ部Ⅱ部隔年開講の科目か、Ⅰ部・Ⅱ部の担当者が同一であることを示す。

〈学部〉（五十音順）

イスラームとは何か《秋》（イスラームのとらえ方）　柴山　滋
インド学仏教学への誘いA（仏教研究入門）　岩井昌悟（Ⅰ）
インド学仏教学への誘いA（仏教研究入門）　伊吹　敦（Ⅱ）
インド学仏教学への誘いB（インド学研究入門）　山口しのぶ（Ⅰ）
インド学仏教学への誘いB（インド学研究入門）宮本久義（Ⅱ）
インド現代思想《春》（インド近・現代の宗教思想家）　宮本久義（Ⅰ）
インド古典哲学（インド思想史）　宮本久義（Ⅰ）
インド古典哲学（インド古典哲学概説）《春》　沼田一郎（Ⅱ）
インド古典哲学（インド古典哲学の諸課題）《秋》沼田一郎（Ⅱ）
インド哲学仏教学演習①（インド古代社会・文化の基礎）　沼田一郎（Ⅰ）
インド哲学仏教学演習②（インド思想研究）　宮本久義（Ⅰ）
インド哲学仏教学演習③（中世ヒンドゥー教思想研究）　橋本泰元（Ⅰ）
インド哲学仏教学演習④（インド大乗仏教の研究）　渡辺章悟（Ⅰ）
インド哲学仏教学演習⑤（初期仏教研究）　岩井昌悟（Ⅰ）
インド哲学仏教学演習⑦（道元『正法眼蔵随聞記』を読む）　伊吹　敦（Ⅰ）
インド哲学仏教学演習⑧（密教研究およびインド・仏教美術の研究）　山口しのぶ（Ⅰ）
インド哲学仏教学演習⑨⑪（インド古代社会・文化の基礎）　沼田一郎（Ⅱ）
インド哲学仏教学演習⑩⑫（仏教学分野）　山口しのぶ（Ⅱ）
インドの芸能《春》（インド芸能の多様性―その中心と周縁）　小西公大（Ⅰ）
インドの宗教A（ヴェーダの宗教と反ヴェーダ的自由思想）

橋本泰元（Ⅰ・Ⅱ）
インドの宗教Ｂ（反ヴェーダ的自由思想とヒンドゥー教諸思想の展開）　橋本泰元（Ⅰ・Ⅱ）
インドの風土と文化《秋》（造形をめぐるインドの歴史と文化）　石川　寛（Ⅱ）
インド・仏教の美術《秋》（仏教の仏とヒンドゥーの神々の図像学的考察）　山口しのぶ（Ⅰ）
インド仏教のあゆみＡ（釈尊の覚りとその展開）　岩井昌悟（Ⅰ・Ⅱ）
インド仏教のあゆみＢ（大乗仏教とは何か）岩井昌悟（Ⅰ・Ⅱ）
インド舞踊《秋》（インド舞踊バラタナーティヤムの実技と理論）　久保田幸（Ⅱ）
インド文学《春》（文学を通して見るインド文化）宮本　城（Ⅰ）
インド文学《秋》（ヴィンディヤ山脈の頂きからインド文学を見る）　高橋孝信（Ⅱ）
キリスト教とは何か《春》（キリスト教の誕生とその背景を思想的・歴史的にたどりながら、キリスト教の特徴を学ぶ。）　山中利美（Ⅰ）
華厳の思想《春》（華厳経の思想と文化）　金本拓士（Ⅱ）
現代に生きる仏教《春》（現代の社会問題解決に積極的にかかわる「Engaged Buddhism」について、日本・東南アジア・米国などの仏教者の事例を学び、現代における自己および仏教の社会的役割を共に探求する）　戸松義晴（Ⅱ）
現代のインド《秋》（インド近・現代の政治思想家）　宮本久義（Ⅰ）
古代インドの社会《春》（インド古代史と法典文献の歴史）　沼田一郎（Ⅱ）
坐禅のこころ《春》（こころの坐りによって、自己と向き合う）　篠塚純海（Ⅱ）
サンスクリット文献を読むⅠ（古典サンスクリット入門）　沼田一郎（Ⅰ）
サンスクリット文献を読むＡＢ（古典サンスクリット初級文法）　渡邉郁子（Ⅱ）
社会と宗教Ａ（「宗教」の社会性と個人性）　冨澤かな（Ⅱ）
社会と宗教Ｂ（インドの社会と宗教とその理解）冨澤かな（Ⅱ）
写経のこころ《春》　張堂興昭（Ⅱ）
宗教学ⅡＡＢ（宗教文化の理解に向けて：宗教の不思議を考える）　石井研士（Ⅰ）
宗教学ⅡＡ（アジア宗教の歴史と現状）　山口しのぶ（Ⅱ）
宗教学ⅡＢ（宗教学の諸概念からアジア宗教をとらえる）　山口しのぶ（Ⅱ）
宗教科教育論《春》（仏教と教育について）　成瀬良徳（Ⅰ）
宗教科指導法Ⅰ・Ⅱ（「宗教科」の教育と指導）成瀬良徳（Ⅰ）
宗教間の差異と対話Ａ（春学期は宗教間の差異に焦点をあてる。まず、宗教学における理論を学ぶ。次に諸宗教の比較を行う。宗教は文化の基底であるが、西洋と東洋という視点だけでな

く、神道や仏教など日本の諸宗教の違いにも目を向ける。）　松野智章（Ⅰ）
宗教間の差異と対話B（秋学期は宗教間の対話に焦点をあてる。宗教が多くの紛争と関わりを持ってきたことは事実である。宗教間対話とは、国際社会がグローバル化する中で諸宗教がどうあるべきか模索することである。）　松野智章（Ⅰ）
宗教とは何かA（多様なる教理と実践の世界）　島田茂樹（Ⅰ）
宗教とは何かB（華麗なる文化と芸術の世界）　島田茂樹（Ⅰ）
宗教をめぐる諸問題AB（仏教など諸宗教における聖者とは〈オムニバス形式〉）　橋本泰元（Ⅱ）
初期仏教の思想《春》（すべては解脱のために）　岩井昌悟（Ⅰ）
禅の思想《春》（禅思想の形成と社会との交渉）　伊吹　敦（Ⅰ）
総合ⅧAB（日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学と実践―）　渡辺章悟（Ⅰ）

卒業論文・製作

大乗仏教の思想Ⅰ《春》（空の世界に何があるのか）　渡辺章悟
大乗仏教の思想Ⅱ《秋》（唯識思想論）　橘川智昭
チベット仏教のあゆみ《春》（チベット仏教の思想と文化）　山口しのぶ
中国仏教のあゆみA（初伝期から南北朝まで）　伊吹　敦
中国仏教のあゆみB（隋代から現代まで）　伊吹　敦
哲学概論AB（自分の頭で考えるということ）　渡邉郁子（Ⅱ）
天台の思想《秋》　林　鳴宇（Ⅰ）
東南アジア仏教のあゆみ《春》（スリランカ及び東南アジア諸国における上座仏教の国家的受容とその歴史的変遷過程、また主要経典の概要把握）　藪内聡子（Ⅱ）
東洋思想A（東洋の倫理思想―チベットの倫理思想を中心として―）　島田茂樹（Ⅱ）
東洋思想B（東洋の倫理思想―神秘主義（タントリズム）を中心として―）　島田茂樹（Ⅱ）
日本の思想《春・秋》（神仏習合思想の形成と展開）　伊東　聡（Ⅰ・Ⅱ）
日本仏教のあゆみAB（日本の仏教を行学二道の視点より理解する）　蓑輪顕量（Ⅰ）
日本仏教のあゆみAB（日本仏教の思想―仏教伝来から鎌倉時代まで）　佐藤　厚（Ⅱ）
念仏の思想《秋》（念仏の思想の特性を理解する）　本多静芳（Ⅰ）
パーリ文献講読AB（聖典に直に触れる）　岩井昌悟（Ⅰ）
ヒンドゥー教とは何か《秋》（ヒンドゥー教の特徴を探り理解を深める）　橋本泰元（Ⅱ）
仏教と社会福祉《秋》（仏教の行ってきた社会福祉事業の歴史的展開とその役割について検証し、現代に必要とされる仏教的な社会福祉のあり方を共に提言する）　戸松義晴
仏教の芸能《秋》（仏教伝統歌謡の基本を学び実修してみよう）　橋本泰元
仏教美術を見る《秋》　朴　亨國（Ⅱ）

仏教文献を読むＡＢ（『法華経』を読む）　橋川智昭（Ⅰ）
仏教文献を読むＡＢ（人間の根源は何か？――宗密『原人論』の講読）　佐藤　厚（Ⅱ）
仏教を歩く《春》（仏教を体感しよう）　伊吹　敦
ブッダの思想とその展開Ａ（仏教とは何か）　渡辺章悟（Ⅰ・Ⅱ）
ブッダの思想とその展開Ｂ（仏教の思想とその展開）　渡辺章悟（Ⅰ・Ⅱ）
密教の思想《秋》（密教の思想と文化）　金本拓士（Ⅱ）
ヨーガとアーユルヴェーダ《春》（インドの叡智を探る）　宮本久義（Ⅱ）
ヨーガのこころ《春》（実践をとおして思想を学ぶ）　番場裕之（Ⅱ）

〈大学院〉

博士前期課程

インド哲学研究Ⅰ　デレアヌ・Ｂ・フローリン
インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ　橋本泰元
インド哲学研究Ⅲ　永ノ尾信悟
サンスクリット文献研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ　宮本久義
サンスクリット文献研究Ⅱ　丸井　浩
初期仏教研究Ⅱ　松村淳子
大乗仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ　渡辺章悟
大乗仏教研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ　山口しのぶ
大乗仏教研究Ⅲ　斎藤　明
日本仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅲ　竹村牧男

博士後期課程

インド哲学特殊研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ　宮本久義
インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ　橋本泰元
仏教学特殊研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ　渡辺章悟
仏教学特殊研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ　山口しのぶ
仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導Ⅳ　伊吹　敦
仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ　竹村牧男

# 平成二十四年度卒業論文

〈Ⅰ部〉

松原　雄太　デーヴァとアスラの善悪
武田　　鏡　インド人の死生観
古瀬　裕晃　現代エンターテイメントから見る仏教―『魔法少女まどか☆マギカ』を中心として―
關野　美奈　性別を問い直す―日本中世寺院の稚児と通じて―
高木　俊次　インドにおけるスーフィーの役割―ニザームッディーンのダルガーを中心として
荘田　拓矢　「インド映画」から見るインド文化
廣澤　将利　軍事面から見たインド
小林　介人　インドにおける児童労働問題
堀内　菜美　昔話から見る人の意識について
市川　航也　金銭教育における道徳性の問題
北林　健誠　インドの外資規制～外資規制を巡る諸問題と今後の行方～
小出　栄作　十一面観音
伊藤　頼人　マハーバーラタにおける正義
橋本　知子　インド映画から見るインド人の恋愛観、宗教観―映画『ボンベイ』を中心にして
長谷川むんな　インド民俗画における儀礼と技法の考察―ミティラー画を題材にして
八鍬　良介　インドにおける自動車産業の変遷
伊藤　善晃　『マヌ法典』と『実利論』の王権論について
森　　隆仁　仏教徒が被災者の心のケアにおいて果せる役割について
後藤　瑞希　日本における葬送・追善供養の形成の意義
平田絵理奈　輪廻転生から考察する死の捉え方
伊藤　綾夏　叡尊の思想とその活動
中筋　啓介　『薬師如来本願功徳経』を現代人の生活にあてはめて実践する―『薬師経纂解』からヒントを得て
長佐古さゆみ　『金剛頂経』と現図九会金剛界曼荼羅三昧耶会の比較
古屋　千瑛　常行三昧の研究―円仁始修説を中心として―
大中　龍承　『スッタニパータ』でみる初期仏教における友の存在
西山　隆淑　チンナマスター
広瀬　祐希　現代インドにおける綿農業～零細綿農家の現状と新たなビジネスモデル～
土方　健矢　古代インドの生死観
荻島　充彦　日本現代音楽とインド音楽
大谷　真紀　古典サンスクリット説話文学に見られる「笑い」―『カター・サリット・サーガラ』にみられる滑稽話を中心に

渡辺　和樹　戦国期における真宗教団の武装化についての一考察―下間蓮崇を基点にみる

菊池　共　インド近代史におけるラーム・モーハン・ローイ―その活動と思想について―

河本　拓也　アジャンター石窟寺院からみるインド社会の歴史的背景

多門　正崇　『教機時国抄』からみる日蓮

藤﨑友桂梨　インドの教育の変遷と現代の問題について

野口　慎矢　禅研究概論

上村茉梨絵　南インド・ヒンドゥー教建築美術の特徴について

鈴木　伸幸　『百五十頌般若』におけるrāgaの一考察

北島　博之　中論研究―なぜ第二十六章が付記されたか―

松井　走馬　『マハーバーラタ』を通してよむ羅刹の描かれ方―ガトートカチャを中心として―

箕輪　拓馬　板敷山弁円伝説の考察

康　圭吾　インドの食文化と韓国の食文化の比較―アーユルヴェーダと陰陽五行説の観点から―

小島　智恵　空海の教育

中澤真理奈　説話文学における行基について―説話に現れる行基像―

坂本　直也　サタジット・レイ～全映画作品の考察～

〈Ⅱ部〉

小暮　祐輔　東西霊性交流の経緯とその意義

グスティ・アユ・クトゥト・プスパワティ　バリ・ヒンドゥー教における〈サラスワティー・プジャ〉

藤田　奈緒　八不と六不からみる空思想について

高木　健次　渡辺海旭と社会事業の関係について

籏鉾　美砂　近代のアメリカ仏教の発展―シカゴ万国宗教会議を中心に―

三宮　恵　曇鸞浄土教の史的意義

**大学院修士論文**

鮫島　有理　初期仏教における次第説法の研究

東洋学論叢　第38号
（東洋大学文学部紀要　インド哲学科篇　第66集）
平成二十五年三月三十日　印刷
平成二十五年三月三十日　発行
［非売品］
発行所　東洋大学文学部
東京都文京区白山五―二八―二〇
電話　インド哲学科〇三三九四五七三五七
印刷　共立印刷株式会社
東京都杉並区和田一―一四―一三
電話　〇三―三三八二―二二一一

# BULLETIN OF ORIENTOLOGY

Bulletin of the Faculty of Letters
Toyo University
NO. 66
March, 2013
Series of
INDIAN PHILOSOPHY
XXXVIII

CONTENTS

TAKEMURA, Makio : Ippen Shonin's Worship of Cintāmaṇicakra Avalokiteśvara at Engyoji Temple on Mt. Shosha ····· (1)

IBUKI, Atsushi : The Impact of Early Chan Buddhism on Nara/Heian Japan ····· (26)

IWAI, Shogo : A Study of *Paṭhamasambodhi* : Japanese Translation and Notes of Parinibbānakathā (Part Three) ····· (91)

NUMATA, Ichiro : Bailment or Deposit in Kauṭilya's *Arthaśāstra* ····· (103)

YAMAGUCHI, Shinobu : The Story of Ghuśmeśvarajyotirliṅga: A Japanese Translation of *Śivapurāṇa*, Vol. 4, Ch. 32 ····· (116)

HASHIMOTO, Taigen : An Introduction to the Sikh Study: A General Survey of Sikh Literature ····· (136)

WATANABE, Shogo : On the Thought of Three Vehicles in the *Prajñāpāramitā-sūtra*s ····· (146)

MIYAMOTO, Hisayoshi : Rules of Śrāddha at a Tīrtha described in *Tristhalīsetu* ····· (170)

Published by
TOYO UNIVERSITY
Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo